

活動名 「若狭サマーキャンプ ～海の豊かさを知ろう」

1. 日時 2022年8月20日(土)～22日(月)

2. 場所 国立若狭湾青少年自然の家

3. 内容

海のプログラム体験学習を通して、仲間とのコミュニケーションを養い達成感を得ること、自分に自信をもち自己肯定感を高める。子ども達が制限のある日常生活から離れ、伸び伸びと海の自然に触れ合う機会を提供する。また海の漂着物を拾い「海洋プラスチック問題」について知る時間を設け、「海の豊かさ」を未来まで持続 (SDGs) していくにはどうすればいいかを考えるきっかけとする。

4. 参加人数 40名

5. 活動の様子



いかだ組みをすることにより、ロープ結びを実践で使ったり、丸太を力を合わせて運んだりして、仲間と協力する大切さを体験する。出来上がって海へ乗り出した時の達成感は大きい。



シーカヤック (4～6年)、カヌー (1～3年) を体験する。二人組、三人組と一緒にバランスを取って声を掛け合いながら漕いでいくことによって、コミュニケーション力を養う。海で命を預ける相手 (バディ) を信頼して息を合わせる体験をした。



チームを組んで水運びゲーム。学年の違う混成グループになり、前の人、後ろの人と協力しながら取り組む。相手を思いやりながら、上手に運ぶために工夫した。



キャンプファイアーでは、火を囲み、歌ったり踊ったりして楽しい時間を過ごした。長い時間を一緒に過ごすことによって、恥ずかしくて話すことができなかった低学年の子ども達もすっかりと打ち解けた。高学年は年下の子を思いやる行動が多く見られた。



海岸でビーチコーミングを行い、海の漂着物にはどんなものがあるか、どこの国から流れてきたのかを考えた。楽しく遊んで過ごしたきれいな海に、こんなに多くのプラスチックゴミが存在していたことに気づく。



若狭地域で海ゴミ問題に取り組んでいる団体「アノミアーナ」の方からお話を聞き、福井の海にどうやって漂着物がたどり着くのかを知る。またアオウミガメや魚が知らないうちにプラスチックを食べて苦しんでいることもわかった。



<参加者の感想>

- ・夏休みの楽しい思い出ができた。
- ・海にはきれいな貝殻もあったけど、ゴミもいっぱいあった。
- ・シーカヤックは波があって少しこわかったけどふたりでがんばってこいだ。

<参加者の感想>

- ・海で泳いだり、カヌーに乗ったり、万華鏡を作ったり、楽しいことがいっぱいできた。キャンプファイアーをはじめた。
- ・ビーチコーミングをして海のゴミがたくさんあることがわかった。注射器も漂着物の中にあった。ゴミの容器にロシアや韓国の文字があった。



<28 団の活動ブログ>

1 日目: <http://gs-fukui28.jugem.jp/?eid=522>

2 日目: <http://gs-fukui28.jugem.jp/?eid=523>

3 日目: <http://gs-fukui28.jugem.jp/?eid=524>

6. 事業の成果

まだまだコロナ禍で宿泊を伴う野外活動体験が少ない中、宿泊を伴うキャンプを開催して、自然体験活動を行うことが目的だった。子ども達は実施前からキャンプを楽しみにしていて事前の体調管理もしっかり行い安心して実施することができた。

また施設側の感染対策ルールを守り安全に活動できるよう心がけたので、感染者を出すこともなく事業実施ができた。

海のプログラムでは仲間と協力しないとできないこと、命を守るために仲間を信頼することなどを学び、一緒にできた時の達成感を得ることができ自信になったようだ。

1 日目、2 日目と楽しい海での体験の後、3 日目に海の環境について考える時間を設けたことによって、砂浜を見る視点が変わり、プラスチックゴミの漂着物がこんなにも多くあることに気づいた。海の生物にもふれあい、この豊かな海を守ることをみんなで考えることができたので一定の成果があったと思われる。